

ほじんかい 法人会長の逝去……「輔仁会」命名の由来

理事長 大浦純平

平成24年8月3日、法人会長で私の母である大浦仁子が逝去致しました。享年92歳、眠るように安らかな最期でした。

昭和26年に保育の仕事に就き、昭和40年につばみ保育園を、昭和45年にはさわらび保育園を開設して、保育に半生を捧げてきました。初期のころ、保育園は託児をする施設と考えられ、色紙を買う予算さえもない時代でした。仲間達と公に働きかけ徐々に教育予算を勝ち取ってきました。今、恵まれた環境で保育ができることに後輩として感謝をしなければならぬと痛感しています。何よりも子どもが好きで、保育の仕事を楽しんだ人でしたが、それを全うできたのも保護者の皆様のご協力と素晴らしい多くの職員に恵まれたからに他なりません。草葉の陰から、「私の愛した保育園をよろしく願い致します。」と心配顔で云っている様な気がしています。会長の遺志を現役職員と共にしっかりと受け継ぎ、今後も保育の王道をしっかりと歩み続けることが会長への最大の供養だと思います。

さて、「輔仁会」という名称は、私の祖父、大浦貫道が母の社会福祉法人設立の際に、論語から採って贈ったという由来があります。

そうし いわ くんし もつ もつ じん たす
- 曾子曰く、君子は文を以て友を会し、友を以て仁を輔く -

「曾子が言われた、君子は文事によって友達を集め、友達によって仁の成長を助ける。」

自分ひとりで教養を身につけるよりも、異なった人間素養を身につけた友人を沢山持ち、切磋琢磨して、お互いの人格向上のために、相互啓発に努めることは大なる財産である。友人を持つこと、そして彼らから得る智慧は、一人で苦しんで得るよりも多くの方向性を生み出す。判断の誤りを少しでも少なくできるだけでなく、もっと広い見地から物事を判断する材料を与えてもらえるものである。

ここで言う「仁」は、相手をゆるし信じあえる心を指しており、さらに、その心のふれあいを通して相互の進歩向上ができる大なる心をも意味する。

祖父は、母にこのような「輔仁」の真意を伝え、「仁子の事業意志を輔ける(助ける)」とかけた上で、社会福祉事業の目的を達成するための重要な言葉として贈りました。そして、この本来の意味に加え、次のように保育の世界に投影したそうです。

子育ては一人でできるものではない、子どもを核として、子と親、親と親、子と子、子と保育者、保育者と保育者、そして、親と保育者という関係が成り立つ、お互いが切磋琢磨し、相互啓発することによりその関係性が深まる。子にとって、親にとって、保育者にとってそれは大なる財産である。

育つ者、育てる者の三者の関係の中にいること、そして、相手から得る知恵は、子ども自身の成長と親と保育者の子育てに多くの方向性を生み出し、子育ての誤りを少しでも少なくできるだけでなく、もっと広い見地から物事を判断する材料を与えてもらえるものである。

保育園を経営する社会福祉法人にとって、「最も大切なものは『人』である、特に人と人の関係が良好に運び、お互いに啓発し合い向上してこそ素晴らしい子育てのお手伝いができるのだよ」と、祖父は伝えたかったのでしょう。

祖父から母へ、そして私へと伝えられた「輔仁会」という名を汚さぬよう、この精神を保育園運営の課題として全職員と共に、なおいっそう大切にしていきたいと心から思っています。今後とも、皆様のご協力とご理解をよろしく願い致します。